

【サービス業・その他の事例 No. 2】

## 食料品製造工場（飲料製造工場の排水処理施設の脱臭）

（訪問：2020年12月11日）

### ■工場の概要

1970年頃に操業した飲料メーカーの工場である。工場の敷地は広いが、住居が混在している地域に立地している。

<b>■事業規模</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・排水量 約4,000m<sup>3</sup>/日</li><li>・汚泥発生量 約130t/日</li></ul>	<b>■事業所の当該建物</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・3階建て排水処理施設</li></ul> <b>■気体排出口</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・10m高さから排気（口径60cm以上90cm未満）</li></ul>
--	---

### ■対策の経緯

周辺住民から、南風のとときに製造物特有のにおいが感じられるとの指摘が市役所に入り、市役所と保健所が合同で現地調査を行った。

臭質などから工場の排水処理施設が臭気発生源であると考えられ、汚泥処理室の換気口に活性炭フィルターを設置した。この汚泥処理室では、沈殿槽から引き抜いた汚泥に凝集剤を添加し、ベルトプレスで脱水しているため、室内ではあるものの汚泥臭が立ち込めていた。

また、脱水した汚泥を搬出する汚泥ホッパーが開放であったため、間仕切りカーテンを設置し、産廃としてトラックへ積み込む作業時に発生する臭気の拡散を抑制した。

### ■臭気発生源と対策装置の構造（→空気の流れ）

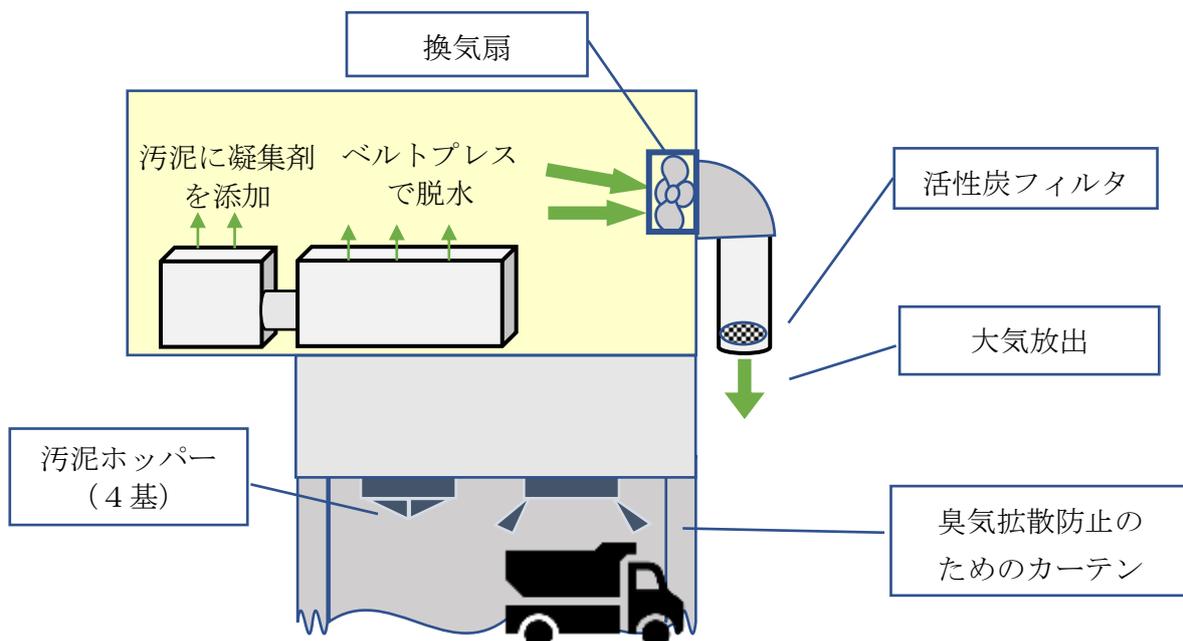
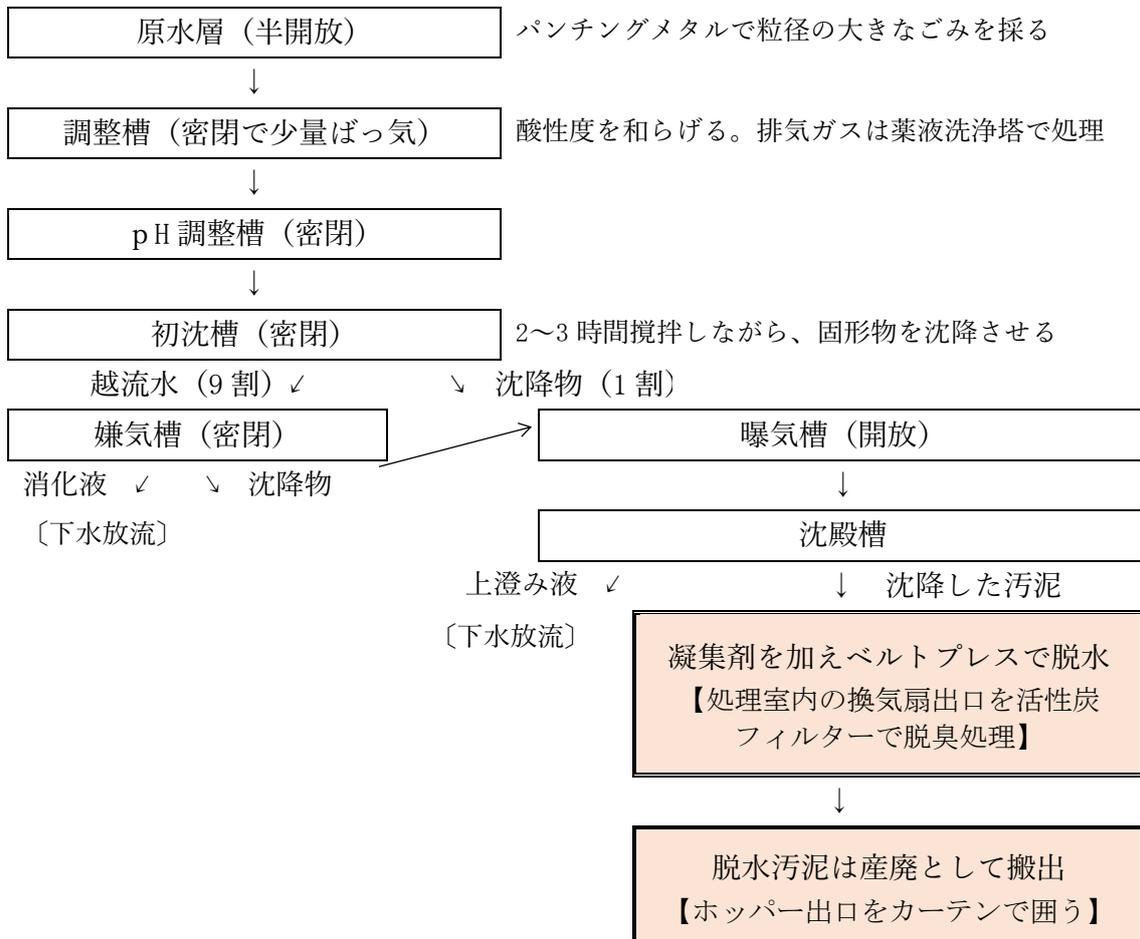




写真1 活性炭フィルター 写真2 汚泥ホッパーとカーテン（左：内側、右：外側）

■排水処理フロー



■対策にかかったコスト

・イニシャルコスト

カーテンは3方向を囲う構造で130万円であった。

・ランニングコスト

活性炭フィルター（厚さ5cm）は、並列に設置した2つのダクト内に設置しており、1枚15,000円のフィルターを年1回交換しているため、年間3万円かかっている。

・メンテナンスの労力

特になし。

■対策後の効果

排水処理の苦情はなくなった。

■周辺環境、地域との関わり等

悪臭苦情が発生しないよう対策に努めていきたい。